資料 2-2

公立大学法人島根県立大学第４期中期計画（素案）

はじめに

・この中期計画は、島根県が策定する「公立大学法人島根県立大学第４期中期目標」に定める目標を達成するため、公立大学法人島根県立大学が目標期間中の具体的な取組及びその実施状況に関する指標を定めるものである。
・公立大学法人島根県立大学は、「地域貢献・教育重視型大学」を目指し、理事長・学長のリーダーシップの下、中期計画に沿った大学改革を推進する。

（基本目標）

「地域に貢献する人材を輩出する大学」

（基本目標を達成するためにとるべき措置）

（１）入学者に占める県内出身者割合の向上

・マーケティングの強化やブランド力の向上、入試制度改革に取り組み、志願者数の増加につなげる。(No.1)
・県内入学生の確保のため、大学案内や Web サイト、SNS、動画コンテンツ、広報誌など多様な広報ツールを活用し、大学の特色ある学修内容や魅力、養成する人材像を高校生や保護者、進路指導教員に深く印象付ける広報活動を展開する。(No.2)
・志願状況の分析、地域や高校の多様なニーズの聴取などを通じて、県内の中山間地域や離島の高校を対象とした指定校推薦の創設や、専門高校などの高校生も受験しやすい年内入試の拡充、一般選抜における県内枠の設定といった入試制度改革を行う。また、年内入試の拡充に合わせて、入学前教育プログラムを充実させる。(No.3)
・サテライトキャンパスを拠点に、大学生がサポート役となり県内高校生のキャリア形成を支援するプログラム「KENDAI 未来アトリエ」や、県内高校生と大学生が共同で地域課題に取り組む活動を推進するなど、高大連携を強化する。(No.4)
・専門職に関するキャリア教育や職業体験等の大学の専門教育を高校生に提供し、県内で不足する教員、看護師、保育士などの専門人材の養成に向けて、県内高校との高大連携、また病院等の専門人材を含めた高大社連携を強化する。(No.5)

評価指標	①　志願倍率：第３期平均志願倍率を上回る【毎年度の実績】or【第４期中期目標期間の平均実績】 ②　入学定員の充足率：100％【毎年度の実績】 ③　入学者に占める県内出身者の割合：●％以上【毎年度の実績】 ④　教職員や学生による説明会や高校訪問を実施する。 ⑤　指定校推薦の創設や年内入試の拡充、一般選抜における県内枠の設定等の入試制度改革を行う。 ⑥　高大連携、高大社連携活動実施件数：●件以上【毎年度の実績】

（２）学びを通じた地域貢献や資格・免許取得の促進

・サテライトキャンパスを拠点に、地域住民と交流しながら実践型教育や地域教育を行うとともに、学生や教職員、自治体、企業などが連携して地域課題の解決に取り組む。(No.6)
・教職センターにおいて教職課程を一元的に管理し、現場実習の充実や教育関係機関との連携強化を通じて、進路決定を支援する。また、教員不足の状況や学生のニーズ、学部学科の特性を踏まえ、新たにオンライン講義やオンデマンド教材を活用して、資格・免許取得や公務員試験対策の支援、教職課程の開設を検討する。(No.7)

評価指標	①　教員の地域貢献活動取組数：600 件以上【毎年度の実績】 ②　国家試験合格率：100％（出雲キャンパス）【毎年度の実績】 ・看護師　　：100％ ・保健師　　：100％ ・助産師　　：100％ ・管理栄養士：100％ ③　教職センターにおいて、教職志望学生向けの説明会や各種講座等を実施する。 ④　島根県教員採用試験合格者数：●人以上

（３）県内就職率の向上

・各キャンパスのキャリア支援担当教職員を中心に、学生の個性と希望を踏まえたキャリア支援プログラムを策定・実施し、学生の進路決定を支援する。(No.8)

・企業や自治体、ふるさと島根定住財団、しまね産学官人材育成コンソーシアムなどと連携し、学生が地域の企業を知る機会の創出や、インターンシップ、実践型キャリア教育の充実を図り、地域の担い手となる人材の県内定着に取り組む。（No.9）
・学生にとってキャリアモデルとなる卒業生とのつながりを強化する。（No.10）
・学生のキャリア意識を高め、自ら明確なキャリアパスを見つけ、就職活動やキャリア形成に必要な知識・スキルを修得できるよう、キャリア教育の充実を図る。（No.11）

評価指標	① 就職率：第３期中期目標期間の水準を維持する【毎年度の実績】 ② 県内就職率：50%以上【毎年度の実績】 ③ インターンシップ参加者数：●人（全学）【毎年度の実績】 ・浜田キャンパス：●人 ・出雲キャンパス：●人 ・松江キャンバス：●人 ④ 企業や自治体、ふるさと島根定住財団、しまね産学官人材育成コンソーシアムなどと連携した、地域の担い手となる人材の県内定着に資する企画を実施する。

（大学改革に関する目標を達成するためにとるべき措置）

（１）県民からの期待に応える存在意義の高い大学

・理事長・学長を本部長とする魅力化推進本部を中心に、社会情勢の変化に伴う地域からの要請や、多様化する学生ニーズに柔軟に応え、魅力ある大学づくりを迅速かつ戦略的に推進する。（No.12）
・地域に開かれた大学として、サテライトキャンパスや図書館なども活用しながら、県民のニーズに対応した公開講座、講演会、講習、専門職向けのリカレント講座の開催など、学習機会を充実させる。（No.13）
・県民からの期待に応える存在意義の高い大学として、幅広く県民等から意見を聴き、大学運営に反映する。（No.14）

評価指標	① 魅力化推進本部の下、大学運営の重要課題ごとに推進室（「入試改革・高大連携推進室」「キャリア戦略推進室」「IR 推進室」「広報推進室」「情報基盤推進室」）を設置し、大学の魅力化を図るための制度の構築・改善や事業の実施等を通じて、地域貢献に資する施策を推進する。

	②　公開講座や講習会等の実施回数：●回以上【毎年度の実績】 ③　「KENDAI 縁結びフォーラム」を実施する。

（２）地域が抱える諸課題に対応する研究及び教育を重視する大学

・地域の自治体、企業、経済団体等と連携して DX（デジタルトランスフォーメーション）人材の養成や、持続可能な地域社会の実現を牽引する教育研究に取り組む。(No.15)
・地域をフィールドに、自治体や企業、住民などと連携しながら、学生が主体的に課題を発見し、解決策を提案する実践的な教育を行う。(No.16)

評価指標	①　新たな情報系科目を開講する。 ②　持続可能な地域社会の実現に向けた教育研究を実施する。 ③　地域貢献推進奨励金の採択件数：●件以上【毎年度の実績】

（３）理事長・学長のリーダーシップのもと機動的かつ戦略的な運営を行う大学

・「地域に貢献する人材を輩出する大学」及び「地域貢献・教育重視型大学」の実現に必要な大学改革を進めるため、理事長・学長のリーダーシップの下、戦略的な大学運営を行うガバナンス体制を整備する。(No.17)
・大学の意思決定プロセスや財務状況などの情報を積極的に公開し、大学運営の透明性を高めるとともに、定期的な自己評価や外部評価を通じてガバナンス体制の適切性を確認する。(No.18)

評価指標	①　大学の意思決定プロセスや財務状況などの情報を公開する。 ②　定期的に自己評価や外部評価を行い、ガバナンス体制の適切性を確認する。

１．社会情勢の変化に的確に対応した大学づくりに関する目標を達成するためにとるべき措置

・理事長・学長を本部長とする魅力化推進本部を中心に、社会情勢の変化に伴う地域からの要請や、多様化する学生ニーズに柔軟に応え、魅力ある大学づくりを迅速かつ戦略的に推進する。(No.12 再掲)

・地域の自治体、企業、経済団体等と連携してDX（デジタルトランスフォーメーション）人材の養成や、持続可能な地域社会の実現を牽引する教育研究に取り組む。(No.15 再掲)
・多様化する学生ニーズを把握し、学生が安心して充実した学生生活を送れるよう、健康管理や学修支援、経済的支援、キャリアサポート、正課外活動の支援などを充実させる。(No.19)

評価指標	① 魅力化推進本部の下、大学運営の重要課題ごとに推進室（「入試改革・高大連携推進室」「キャリア戦略推進室」「IR推進室」「広報推進室」「情報基盤推進室」）を設置し、大学の魅力化を図るための制度の構築・改善や事業の実施等を通じて、地域貢献に資する施策を推進する。（再掲） ② 新たな情報系科目を開講する。（再掲） ③ 持続可能な地域社会の実現に向けた教育研究を実施する。（再掲） ④ 学生生活の満足度：第４期中期目標期間初年度の割合を上回る【第４期中期目標期間最終年度の実績】 ⑤ 退学率：第３期平均割合を下回る【毎年度の実績】

２．大学の教育研究などの質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

（１）教育

① 人材育成・組織の方向性

・学部・学科・コースは、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーの３つのポリシーに基づき、第４期中期目標で示された人材の養成に取り組む。(No.20)
・短期の海外研修や協定校との交換留学、オンライン共同授業などを通じて、外国語によるコミュニケーション能力の修得とともに、学生の国際的視野や異文化理解を養い、グローバルなネットワークを構築する機会を提供する。(No.21)
・地域をフィールドに、自治体や企業、住民などと連携しながら、学生が主体的に課題を発見し、解決策を提案する実践的な教育を行う。(No.16 再掲)
・DX人材の養成や社会人の学び直しといった地域のニーズ、学生の多様な進路希望、志願状況の分析結果などに対応し、情報教育の充実強化といったカリキュラムの見直しや、学部・学科・コースの再編を推進する。(No.22)
・高校や自治体、医療機関などとの連携のもと、県内で不足する教員や看護師、保育士などの専門人材を養成し、地域の教育、医療、福祉の環境改善に貢献する。(No.23)

・大学院では、学修プログラムの充実、学部との接続強化による学内進学の推進、社会人学生の確保など、大学院改革を着実に進める。(No.24)

評価指標	①　３つのポリシーを公表する。 ②　３つのポリシーの点検・改善を実施する。 ③　情報教育の充実強化等のカリキュラムの見直しや、学部・学科・コースの再編を推進する。 ④　学修プログラムの充実、学内進学の推進、社会人学生の確保等の大学院改革を進める。

②　教育内容の充実

ア　入学者の受入れ

・マーケティングの強化やブランド力の向上、入試制度改革に取り組み、志願者数の増加につなげる。(No.1 再掲)

・県内入学生の確保のため、大学案内やWebサイト、SNS、動画コンテンツ、広報誌など多様な広報ツールを活用し、大学の特色ある学修内容や魅力、養成する人材像を高校生や保護者、進路指導教員に深く印象付ける広報活動を展開する。(No.2 再掲)

・志願状況の分析、地域や高校の多様なニーズの聴取などを通じて、県内の中山間地域や離島の高校を対象とした指定校推薦の創設や、専門高校などの高校生も受験しやすい年内入試の拡充、一般選抜における県内枠の設定といった入試制度改革を行う。また、年内入試の拡充に合わせて、入学前教育プログラムを充実させる。(No.3 再掲)

・サテライトキャンパスを拠点に、大学生がサポート役となり県内高校生のキャリア形成を支援するプログラム「KENDAI未来アトリエ」や、県内高校生と大学生が共同で地域課題に取り組む活動を推進するなど、高大連携を強化する。(No.4 再掲)

・専門職に関するキャリア教育や職業体験等の大学の専門教育を高校生に提供し、県内で不足する教員、看護師、保育士などの専門人材の養成に向けて、県内高校との高大連携、また病院等の専門人材を含めた高大社連携を強化する。(No.5 再掲)

評価指標	①　志願倍率：第３期平均志願倍率を上回る【毎年度の実績】or【第４期中期目標期間の平均実績】(再掲) ②　入学定員の充足率：100%【毎年度の実績】(再掲) ③　入学者に占める県内出身者の割合：●%以上【毎年度の実績】(再掲) ④　教職員や学生による説明会や高校訪問を実施する。(再掲) ⑤　指定校推薦の創設や年内入試の拡充、一般選抜におけ

	る県内枠の設定等の入試制度改革を行う。（再掲） ⑥　高大連携、高大社連携活動実施件数：●件以上【毎年度の実績】（再掲）

イ　教育課程の充実

㈠ グローカル人材の育成

・短期の海外研修や協定校との交換留学、オンライン共同授業などを通じて、外国語によるコミュニケーション能力の修得とともに、学生の国際的視野や異文化理解を養い、グローバルなネットワークを構築する機会を提供する。(No.21 再掲)

・地域をフィールドに、自治体や企業、住民などと連携しながら、学生が主体的に課題を発見し、解決策を提案する実践的な教育を行う。(No.16 再掲)

㈡ キャリア教育

・学生のキャリア意識を高め、自ら明確なキャリアパスを見つけ、就職活動やキャリア形成に必要な知識・スキルを修得できるよう、キャリア教育の充実を図る。(No.11 再掲)

㈢ リカレント教育

・履修証明プログラム、科目等履修生、聴講生の制度を周知するとともに、リカレント教育を充実させ、社会人の学び直しのニーズに対応する。(No.25)

評価指標	①　海外への派遣学生数（留学者、研修等）：180 人以上【毎年度の実績】 ②　海外からの受入学生数（留学者、研修等）：100 人以上【毎年度の実績】 ③　地域貢献推進奨励金の採択件数：●件以上【毎年度の実績】（再掲） ④　就職率：第３期中期目標期間の水準を維持する【毎年度の実績】（再掲）

ウ　成績評価など

・シラバスに授業科目の目的と到達目標、ディプロマポリシーに定められた学修目標と授業科目の到達目標の関係、授業計画、成績評価基準、事前学修と事後学修の内容等を明示し、公正な成績評価を実施することで、ディプロマポリシーで定めている知識・能力を確実に学生に修得させる。(No.26)

評価指標	①　シラバスの点検・改善を実施する。

③　教育の質を高めるための取組

ア　教育の質及び教育環境の向上

・学生の学修成果を可視化し、教育の質を向上させるための教学 IR を含めた教学マネジメントを推進する。(No.27)

・学生アンケートなどを基に授業の強みや課題を抽出し、教員同士の対話やワークショップを通じて具体的な改善策を策定する。(No.28)

・教職員の資質向上のため、組織的な取組（SD（スタッフ・ディベロップメント））を推進し、大学を取り巻く環境の変化に対応できる能力や、戦略的な大学運営に必要な高度で専門的な知識・技能の修得につなげる。(No.29)

・自己点検・評価に加え、法人評価委員会や認証評価の結果を公表するとともに、教育の質の向上や大学運営の改善に適切にフィードバックする。(No.30)

評価指標	①　学生による授業アンケートの回答率：●%以上【毎年度の実績】 ②　教員による授業アンケートへのフィードバック回答率：●%以上【毎年度の実績】 ③　教員相互の授業参観（授業公開）を実施する。 ④　FD・SD に関する研修の開催回数：６回以上【毎年度の実績】 ⑤　近隣県の大学や先行大学への聞き取り調査の実施、外部研修会への参加等により、教職協働に向けたより効果的な体制を構築する。 ⑥　法人評価委員会や認証評価機関から指摘された事項について、改善策を講じ Web サイトに公開する。

イ　教育実施体制の整備

・自習スペースの確保や ICT 環境の整備など、学生の学習環境を一層充実させる。(No.31)

・老朽化した施設・設備の修繕や適切な財産保全対策に加えて、学習や研究に必要な施設・設備の整備方針を策定し、計画的に教育環境の質の向上に取り組む。(No.32)

・キャンパス間で教育プログラムの共有や教員の連携強化を図り、ICT を活用したオンライン講義やオンデマンド教材を提供することで、学生が教職免許や各種資格の取得などにキャンパスを横断して柔軟に取り組める体制の整備を図る。(No.33)

・教育の質的改善を目的に、短期集中型授業の導入や教育内容・授業形態の改善、また、ギャップタームを活用した短期留学、インターンシップ、ボランティアなど学生の社会体験機会を充実するため、クォーター制を導入する。(No.34)

評価指標	①　施設整備方針案に基づいた計画的な整備改修を実施す

	る。 ② 教職免許や各種資格の取得などにキャンパスを横断して柔軟に取り組める体制を整備する。 ③ クォーター制を導入する。

④ 学生支援の充実

ア 学生生活

・多様化する学生ニーズを把握し、学生が安心して充実した学生生活を送れるよう、健康管理や学修支援、経済的支援、キャリアサポート、正課外活動の支援などを充実させる。(No.19 再掲)

評価指標	① 学生生活の満足度：第４期中期目標期間初年度の割合を上回る【第４期中期目標期間最終年度の実績】(再掲) ② 精神保健調査（GHQ）や精神健康調査（UPI）を実施する。 ③ 日本学生支援機構や自治体、各種団体、本学が実施する奨学金制度を周知する。

イ キャリア・進学

・各キャンパスのキャリア支援担当教職員を中心に、学生の個性と希望を踏まえたキャリア支援プログラムを策定・実施し、学生の進路決定を支援する。(No.8 再掲)

・企業や自治体、ふるさと島根定住財団、しまね産学官人材育成コンソーシアムなどと連携し、学生が地域の企業を知る機会の創出や、インターンシップ、実践型キャリア教育の充実を図り、地域の担い手となる人材の県内定着に取り組む。 (No.9 再掲)

・学生にとってキャリアモデルとなる卒業生とのつながりを強化する。(No.10 再掲)

・教職センターにおいて教職課程を一元的に管理し、現場実習の充実や教育関係機関との連携強化を通じて、進路決定を支援する。また、教員不足の状況や学生のニーズ、学部学科の特性を踏まえ、新たにオンライン講義やオンデマンド教材を活用して、資格・免許取得や公務員試験対策の支援、教職課程の開設を検討する。(No.7 再掲)

・学生のボランティア活動を支援するため、地域との連携を強化し、ボランティア情報の収集・提供や相談体制の充実を図る。(No.35)

・学内の大学院への進学や４年制学部への編入学、海外協定校への進学を希望する学生を対象とした進学説明会を開催するなどの支援を行う。(No.36)

評価指標	① 就職率：第３期中期目標期間の水準を維持する【毎年

	度の実績】（再掲） ② 県内就職率：50%以上【毎年度の実績】（再掲） ③ インターンシップ参加者数：●人（全学）【毎年度の実績】（再掲） ・浜田キャンパス：●人 ・出雲キャンパス：●人 ・松江キャンバス：●人 ④ 企業や自治体、ふるさと島根定住財団、しまね産学官人材育成コンソーシアムなどと連携した、地域の担い手となる人材の県内定着に資する企画を実施する。（再掲） ⑤ 国家試験合格率：100%（出雲キャンパス）【毎年度の実績】（再掲） ・看護師　　：100% ・保健師　　：100% ・助産師　　：100% ・管理栄養士：100% ⑥ 教職センターにおいて、教職志望学生向けの説明会や各種講座等を実施する。（再掲） ⑦ 島根県教員採用試験合格者数：●人以上【毎年度の実績】（再掲） ⑧ ボランティア参加学生数：●人以上【毎年度の実績】 ⑨ 大学院や海外協定校への進学、４年制学部への編入学を希望する学生を対象とした進学説明会を実施する。

（２）研究

① 目指す研究及び研究成果の地域への還元

・しまね地域国際研究センターは、教員の研究力の向上を目指した研究支援や、地域貢献に重点を置いた研究プロジェクトを推進するための支援策の整備・拡充を通じて、さらなる研究活動の充実・発展を図る。(No.37)

・研究成果は授業に生かすとともに、「KENDAI 縁結びフォーラム」や公開講座などを通じて地域に還元する。(No.38)

評価指標	① しまね地域国際研究センタープロジェクト研究助成金の採択件数：●件以上【毎年度の実績】 ② 教員の地域貢献活動取組数：600 件以上【毎年度の実績】（再掲） ③ 共同研究事業の実施件数：●件以上【毎年度の実績】（再掲）

	④　「KENDAI 縁結びフォーラム」を実施する。（再掲） ⑤　公開講座や講習会等の実施回数：●回以上【毎年度の実績（再掲）

②　研究支援体制などの充実

・各キャンパスの特性に合わせた研究を推進するため、キャンパス単位での研究支援体制を充実させる。(No.39)

・地域貢献、SDGｓを重視した研究プロジェクトの推進や若手研究者の育成のため、学内の競争的資金を充実させる。(No.40)

・研究の透明性や公正性を高め、社会からの信頼を確保するため、毎年度、研究不正防止に関する取組計画を策定し、研究倫理・コンプライアンス研修や研究費に関するモニタリング調査、内部監査を行う。(No.41)

評価指標	①　しまね地域国際研究センタープロジェクト研究助成金の採択件数：●件以上【毎年度の実績】（再掲） ②　若手研究者の研究プロジェクト支援件数：●件以上【毎年度の実績】 ③　研究不正防止計画に基づき、研究費の適切な執行に関するモニタリング調査及び内部監査を実施する。

③　外部競争的資金の導入

・URA（ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター）を配置する等の研究支援体制を充実させ、科学研究費補助金等の外部資金の申請率・採択率を向上させるとともに、企業や自治体、団体などとの共同研究を推進する。(No.42)

評価指標	①　科研費の申請率：60%以上【毎年度の実績】 ②　URA を配置し、研究支援体制を強化する。 ③　科研費公募説明会を実施する。 ④　共同研究事業の実施件数：●件以上【毎年度の実績】

（３）地域貢献

①　県内就職率の向上

・企業や自治体、ふるさと島根定住財団、しまね産学官人材育成コンソーシアムなどと連携し、学生が地域の企業を知る機会の創出や、インターンシップ、実践型キャリア教育の充実を図り、地域の担い手となる人材の県内定着に取り組む。（No.9 再掲）

・学生にとってキャリアモデルとなる卒業生とのつながりを強化する。(No.10 再掲)

評価指標	① 就職率：第３期中期目標期間中の水準を維持する【毎年度の実績】（再掲） ② 県内就職率：50%以上【毎年度の実績】（再掲） ③ インターンシップ参加者数：●人（全学）【毎年度の実績】（再掲） ・浜田キャンパス：●人 ・出雲キャンパス：●人 ・松江キャンバス：●人 ④ 企業や自治体、ふるさと島根定住財団、しまね産学官人材育成コンソーシアムなどと連携した、地域の担い手となる人材の県内定着に資する企画を実施する。（再掲）

② サテライトキャンパスなどを拠点とした地域貢献

・サテライトキャンパスを拠点に、地域住民と交流しながら実践型教育や地域教育を行うとともに、学生や教職員、自治体、企業などが連携して地域課題の解決に取り組む。（No.6 再掲）

評価指標	① 教員の地域貢献活動取組数：600 件以上【毎年度の実績】（再掲）

③ 県民への学習機会の提供

・地域に開かれた大学として、サテライトキャンパスや図書館なども活用しながら、県民のニーズに対応した公開講座、講演会、講習、専門職向けのリカレント講座の開催など、学習機会を充実させる。（No.13 再掲）

評価指標	① 公開講座や講習会等の実施回数：●回以上【毎年度の実績】（再掲） ② 「KENDAI 縁結びフォーラム」を実施する。（再掲） ③ 市民研究員制度を活用した、市民研究員と学部生・大学院生との共同研究を実施する。（浜田キャンパス）

（４）グローバル化の推進

① グローバル化推進に係る体制の整備

・短期の海外研修や協定校との交換留学、オンライン共同授業などを通じて、外国語によるコミュニケーション能力の修得とともに、学生の国際的視野や異文化理解を養い、グローバルなネットワークを構築する機会を提供する。

(No.21 再掲)

・希望するすべての学生が海外で学ぶ機会を得られるよう、安全で安価かつ質の高い教育を提供する海外協定校を開拓するとともに、海外研修奨学金や後援会補助金を活用して参加学生の経済的負担を軽減する。(No.43)

・在学する外国留学生を対象に、島根県の歴史、文化、伝統などに触れながら学生、地域住民との交流を促進できる日本文化研修や交流授業などを実施する。(No.44)

評価指標	① 海外への派遣学生数（留学者、研修等）：180 人以上【毎年度の実績】(再掲) ② 海外からの受入学生数（留学者、研修等）：100 人以上【毎年度の実績】(再掲) ③ 海外協定校の開拓を行う。 ④ 研修費用のコストダウンや海外研修奨学金・後援会補助金を活用して参加学生の経済的負担を軽減する。 ⑤ 在学する外国留学生を対象に日本文化研修や交流授業を実施する。

② 海外の大学などとの交流

・海外の大学・研究機関との共同研究や研究者の往来などの学術研究交流を推進する。また、交流の成果を定量的・定性的な観点から検証し、交流の発展を図る。(No.45)

評価指標	① 学術研究交流を実施する。

３．自主的、自律的な組織・運営体制の確立に関する目標を達成するためにとるべき措置

（１）業務運営の改善

① ガバナンス体制の整備

・「地域に貢献する人材を輩出する大学」及び「地域貢献・教育重視型大学」の実現に必要な大学改革を進めるため、理事長・学長のリーダーシップの下、戦略的な大学運営を行うガバナンス体制を整備する。(No.17 再掲)

・理事会や経営委員会は、地域社会、産業界、教育関係者など幅広いステークホルダーで構成し、戦略的な大学運営に積極的に関与するとともに、監督権限を発揮する。(No.46)

・大学の意思決定プロセスや財務状況などの情報を積極的に公開し、大学運営の透明性を高めるとともに、定期的な自己評価や外部評価を通じてガバナンス体制の適切性を確認する。(No.18 再掲)

評価指標	① 大学の意思決定プロセスや財務状況などの情報を公開する。（再掲） ② 定期的に自己評価や外部評価を行い、ガバナンス体制の適切性を確認する。（再掲）

② 効率的・合理的な運営のための見直し

・DX を推進しながら、組織の業務プロセスや人員配置を定期的に見直し、大学運営の効率性や教職員のワーク・ライフ・バランスを向上させる。(No.47)

評価指標	① 教職員のストレスチェックの実施率：第３期平均実施率を上回る【第４期中期目標期間の平均実績】

（２）経営基盤の強化

① 適正な財務運営の推進

・教職員の定数管理や新たに発生する事業経費を考慮した収支予測に基づく中長期的な経営計画を策定し、大学運営の健全化に向けて自己財源の充実や運営経費の抑制に努める。(No.48)

・独自財源の安定的な確保に向け、外部研究資金の獲得や施設使用料等の適切な設定、寄附金その他の収入の増加に向けた取組を実施する。(No.49)

・志願者数の増加と入学定員の充足による受験料及び授業料収入の安定的な確保に努める。(No.50)

評価指標	① 収支予測の見直しを実施する。 ② 若手研究者の研究プロジェクト支援件数：●件以上【毎年度の実績】（再掲） ③ 科研費の申請率：60％以上【毎年度の実績】（再掲） ④ URA を配置し、研究支援体制を強化する。（再掲） ⑤ 「島根県立大学未来ゆめ基金」の積極的な広報を実施する。 ⑥ 志願倍率：第３期平均志願倍率を上回る【毎年度の実績】or【第４期中期目標期間の平均実績】（再掲） ⑦ 入学定員の充足率：100％【毎年度の実績】（再掲）

② 監査体制の充実

・内部監査、監事監査、会計監査人監査の実施により、大学運営の健全性を確保し、社会への説明責任を果たす。(No.51)

評価指標	① 内部監査、監事監査、会計監査人監査を実施する。

４．評価制度の充実及び情報公開の推進に関する目標を達成するためにとるべき措置

（１）自己点検・評価、外部評価の実施及び評価結果の活用

・自己点検・評価に加え、法人評価委員会や認証評価の結果を公表するとともに、教育の質の向上や大学運営の改善に適切にフィードバックする。(No.30 再掲)

評価指標	① 法人評価委員会や認証評価機関から指摘された事項について、改善策を講じ Web サイトに公開する。(再掲)

（２）情報公開の推進

・自己点検・評価に加え、法人評価委員会や認証評価の結果を公表するとともに、教育の質の向上や大学運営の改善に適切にフィードバックする。(No.30 再掲)
・個人情報取扱規程や情報セキュリティポリシーなどの規定を適宜見直し、情報セキュリティインシデントの発生防止に取り組む。(No.52)

評価指標	① 法人評価委員会や認証評価機関から指摘された事項について、改善策を講じ Web サイトに公開する。(再掲) ② 「情報セキュリティ対策基本計画」の策定及び適切な情報セキュリティポリシーの運用を実施する。 ③ 情報セキュリティに関する意識を啓発する活動を実施する。

５．その他業務運営に関する重要事項の目標を達成するために取るべき措置

（１）広報広聴活動の積極的な展開など

・県民に信頼され、評価される大学として、地域社会に開かれた姿勢を示すために、大学の取組や将来像を分かりやすく積極的に広報する。(No.53)
・県民からの期待に応える存在意義の高い大学として、幅広く県民等から意見を聴き、大学運営に反映する。(No.14 再掲)

評価指標	①　プレスリリース発表件数：●件以上【毎年度の実績】 ②　広報誌 ORORIN の発行及び読者アンケートの実施を行う。

（２）施設設備の維持、整備などの適切な実施

・老朽化した施設・設備の修繕や適切な財産保全対策に加えて、学習や研究に必要な施設・設備の整備方針を策定し、計画的に教育環境の質の向上に取り組む。(No.32 再掲)

評価指標	①　施設整備方針案に基づいた計画的な整備改修を実施する。（再掲）

（３）安全・危機管理体制の確保

・健康管理や防犯に関する意識啓発を行うとともに、安全衛生管理対策や事故防止対策を徹底し、学生及び教職員の安全と安心を確保する。(No.54)
・危機発生時の被害や影響を最小限に抑えるため、危機管理マニュアルに基づいた迅速かつ適切な対応がとれるよう、理事長・学長をトップとした危機管理に万全を期する。(No.55)

評価指標	①　健康診断を実施する。 ②　避難訓練など危機発生時の対応訓練を実施する。

（４）人権の尊重

・人権を尊重し学びやすく働きやすい環境を実現するため、学生及び教職員を対象に充実した人権研修を定期的に実施する。(No.56)
・学内でのハラスメント行為の防止や早期対応のために、相談体制を充実させるとともに、苦情相談窓口や対応措置を学生及び教職員に周知徹底する。(No.57)

評価指標	①　人権に関する研修を実施する。 ②　ハラスメントに関する研修を実施する。 ③　苦情相談窓口の設置及び対応措置の周知を行う。